

Rep
ort

身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2021.4.8

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと→金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail

ただの普通の街路 70mに咲いている花は29種も



帝京大学付属病院の北側、広い道幅の道路が整備された後、昔からの歩道はどうなるのかしらと心配だったのですが、そのまま残されるようでひと安心。4/8の観察では、わずか70mほどの街路になんと29種の植物の花が咲いていました。見つけた順に並べると、

ハナミズキ、ドウダンツツジ、ナガミヒナゲシ、ノボロギク、カラスノエンドウ、ヤエザクラ、ノゲシ、ヤエムグラ、カタバミ、ヒメオドリコソウ、カモジグサ、タンポポ交雑種、アメリカイヌホウツキ、ナズナ、イヌカキネガラシ、オランダミミナグサ、ナガバギシギシ、メマツヨイグサ、ハキダメギク、ハルジオン、アレチノギク、イヌムギ、センダングサ、アメリカフウロ、タチイヌノフグリ、キュウリグサ、ツルヒメソバ、ムラサキカタバミ、トウネズミモチ。

このうち、植栽された植物は最初の2種とヤエザクラの樹木だけ。トウネズミモチも樹木ではありますが、状況からみて実生木が大きくなったものと思われます。あとの26種は地面から自生してきた野草です。道路の管理者であるお役所の立場からすればこの26種はぜ〜んぶ「雑草」。ある日突然、業者によって根こそぎ地面から刈り取られるのでしょうか。単純に考えて、もったいない！ 持続可能な社会づくり(SDGs)の観点からは生物多様性を破壊する行為といえます。

写真右はメマツヨイグサ、このエリアでは昨年4月21日に初めて観察、今年は2週間ほど早い開花です。



復活する自然と園芸植物の競合 なんでもあいの石神井川緑道

行政のやり方を批判してもらちがあきません。野草を目の敵にして「退治しろ!」と考えている市民の方が圧倒的に多数派なのだから仕方ありません。そんな中でも、せっせとお役所に情報提供して、「あの野草を大事にしてください」とお願いした成果とも言えることもありました。

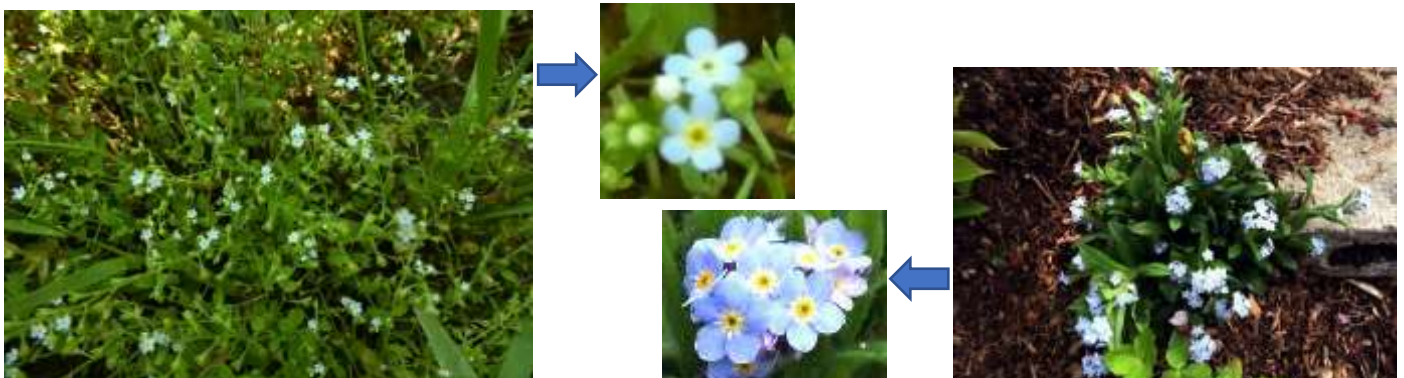
赤塚公園でも限られた場所にしか咲いていないキランソウ（別名ジゴクノカマノフタ）が群落をなしている場所があって、その草刈りを「草高 20 cm ぐらいにとどめておいてほしい」とお願いしていたところ、4/8 の観察ではこのキランソウの生育範囲が昨年より 2 倍以上に広がっていました。これ、板橋区の担当部署が配慮してくれたおかげだと思います。

下の写真左がキランソウですが、これを観察して少し先に行くと、民有地の中に「あった、あった。同じ花が」と思ってみると、これが園芸種のセイヨウキランソウ（同右、目立つ葉は別の種）。花の色も形もそっくりですが、セイヨウ~は花径が立ち上がっています。



どうせなら野生と園芸種の比較探しでもやったら

今の時期に旺盛なのがキュウリグサ（下左）。直径 3mm ぐらいの小さい花ですが「そのまま拡大するとワスレナグサとまるで同じ色形になるのよ」と説明しながら歩いていたら、なんとワスレナグサ（下右）も咲いていました。誰かが勝手に「自主管理花壇」をつくって植えているものなのですが、どうせなら園芸種と野生種の比較見学会でもやったらどうかしら。



次回の石神井川観察は 4/23（金）です。
10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもと出発